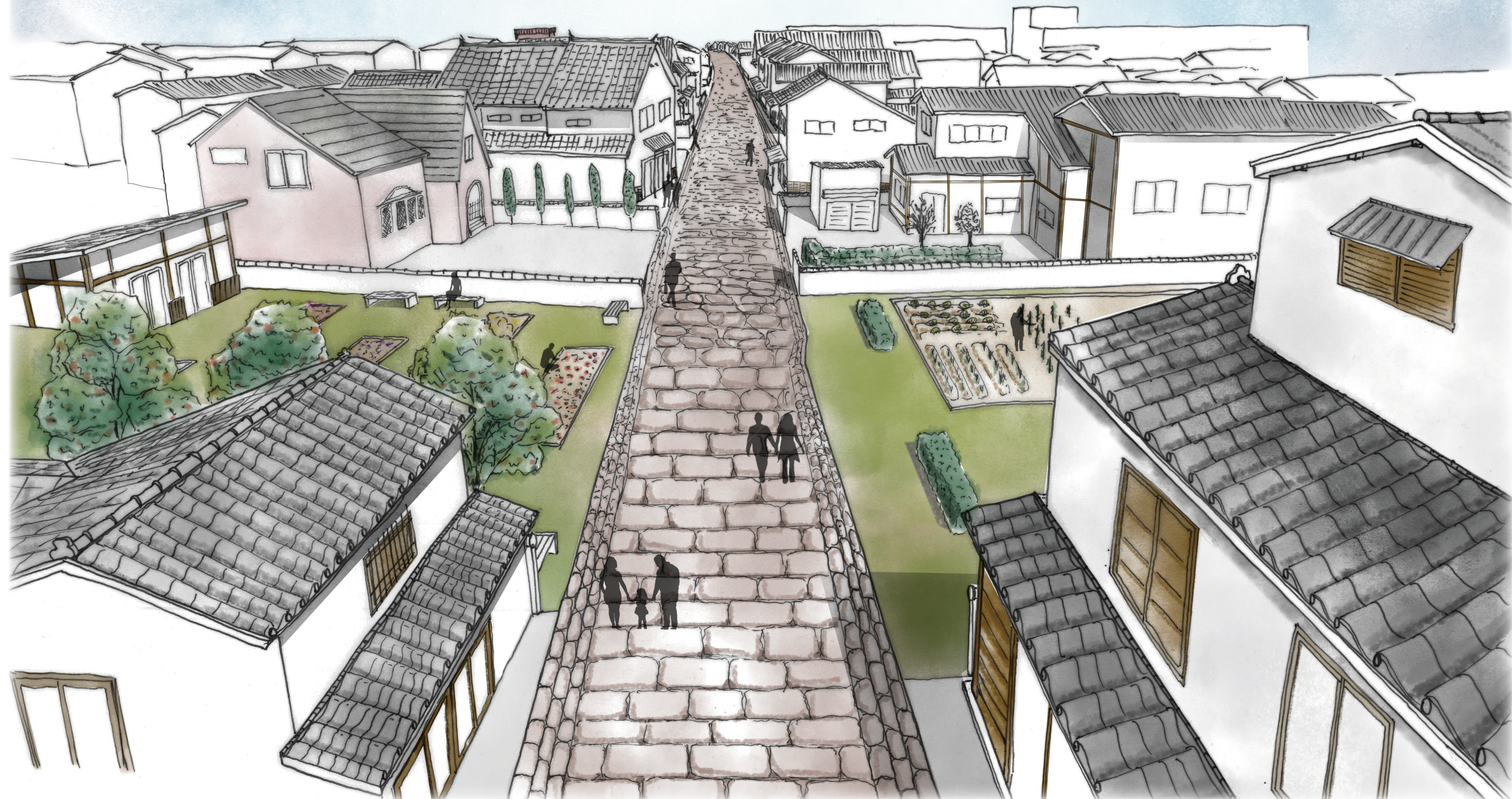


ウラを知り、オモテを知る





● 須坂市都市計画マスタープラン

課題

- ・空き家、空きビルが増える。
- ・「蔵の街並み」の保全整備と連動した観光商業の振興や空き店舗、空き施設の活用。
- ・「蔵の街並み」の景観づくり。
- ・交通量の多い幹線道路に歩道がない。
- ・歩行空間の確保。

方向性

- ・歩いて暮らせる街づくり。
- ・空き地を利用した主要幹線道路である国道 403 号、406 号の整備。
- ・中心市街地の主要道路で来訪者や地区で暮らす人が、安心・安全・快適に移動できる歩行者ネットワークの形成。
- ・須坂固有の町並みの景観づくり。
- ・コミュニティー活動の育成、高齢者、子育て世代への支援。

● 伝統的町並み

伝統的町並みが残る須坂市。「蔵の街並み」と称される須坂駅東の地区は、伝統的建造物群保存地区に選定されている。赤枠で囲われている地区は谷街道、大笹街道、山田道に面していくつかの町屋が残っている。またそれらの町屋の裏には須坂特有の蔵が残っている。



それら蔵は、保存状態が良いものは良いが、悪いものは放置されているのではと感じた。

また銀座通りの街並みは整えられているのに対し、街道に面した他の地区は現代的な住宅が建ち、空き地が目立つところもある。

● 須坂市景観計画

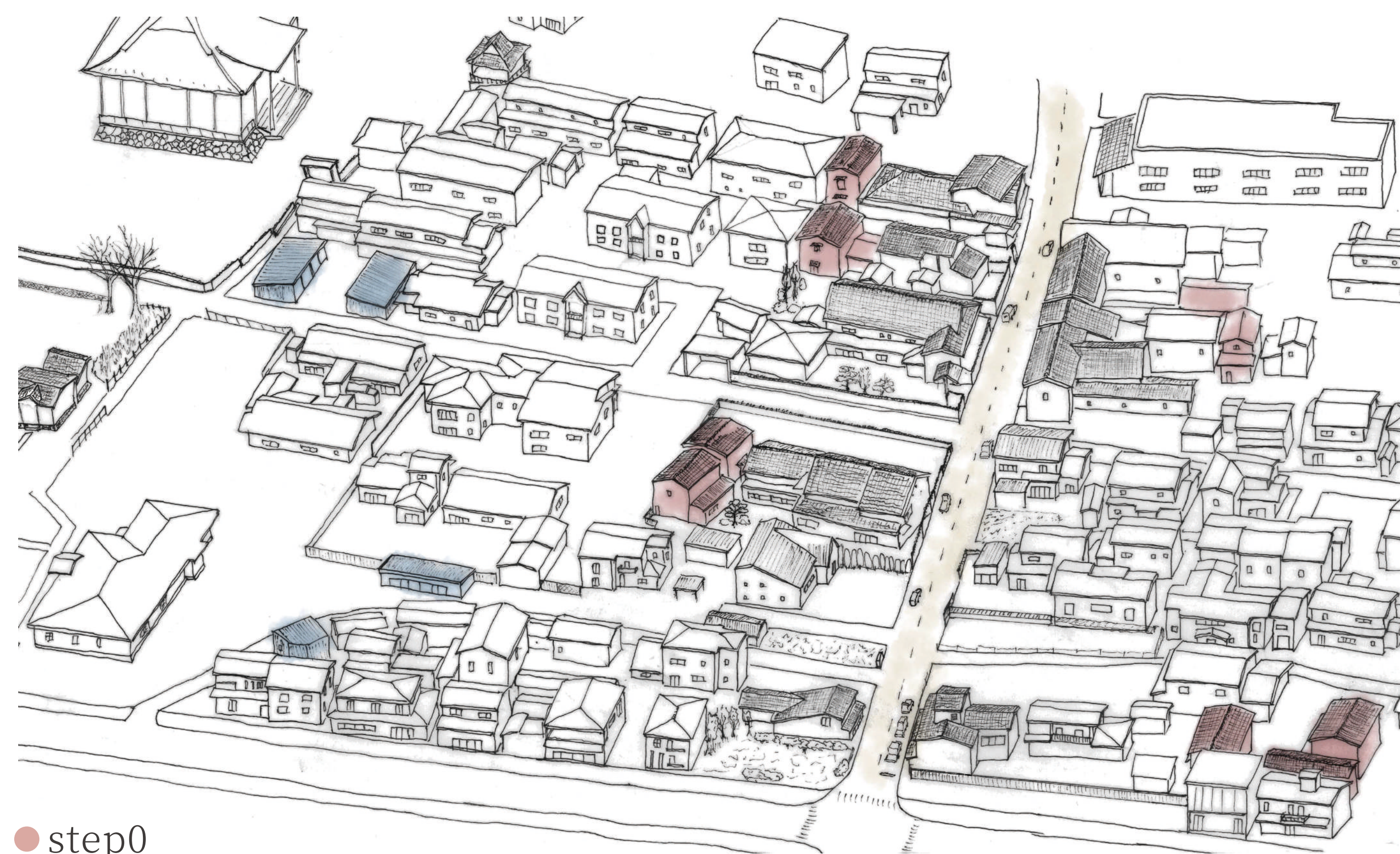


- ・歴史ある街並みに車が多く、歩いてゆっくり街を見れない。
→ 幹線道路（国道 403・406 号）の移動：金井原通り
→ 街全体としての歩行空間

- ・「蔵の町並み」と言われた時の違和感
→ 蔵をもっと活用した取り組み：蔵を市が管理

- ・地域の人はどこで井戸端会議を？
→ 地域の人のための空間を作る

01 対象敷地を知る



● step0

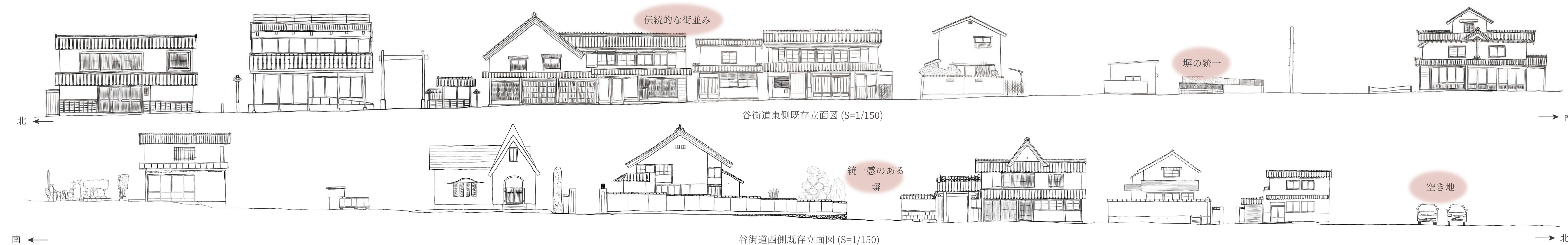
谷街道	土蔵	倉庫
<ul style="list-style-type: none">・伝統的な建造物が複数ある。・統一感のある塀。	<ul style="list-style-type: none">・比較的保存状態がよいものがある。・使用されている蔵は倉庫として利用。	<ul style="list-style-type: none">・似たような意匠の倉庫。・共有スペースとしての敷地。
<ul style="list-style-type: none">・交通量が多い。・歩行空間がない。・所々に空き地がある。	<ul style="list-style-type: none">・私有地の中にあることで隠れている。・倉庫としての利用では観光資源として利用できない。	<ul style="list-style-type: none">・使用者同志の繋がりはない。・利用されているのかわからない。

歩行空間の形成
街並みの修景

蔵の再生、活用

倉庫を活用して
居場所づくり

『ウラ』に隠れた須坂の魅力を利用することで、
「蔵の町並み」という『オモテ』がより知られ良いものとなっていく。



02 新しい須坂に向けて

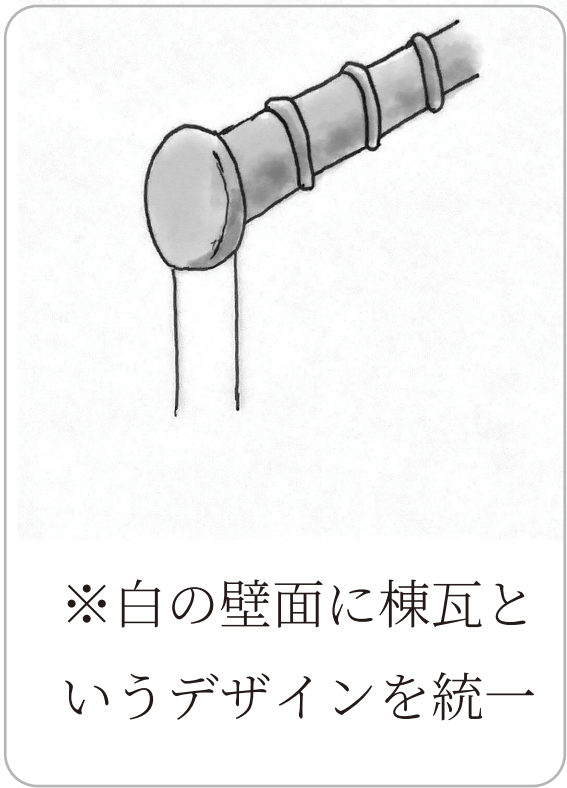
●step1 倉庫をひとのたまり場に

	谷街道	土蔵・倉庫
step1 (5年後)	土日通行禁止 広場 塀を統一	倉庫を人のたまり場に 休憩所 なんでも市
step2 (10年後)	土日通行禁止 片側通行 街並みの修景	蔵を地域の拠点に 蔵の再生
step3 (30年後)	一般車両通行禁止	YAGURA が人を繋ぐ YAGURA テラス YAGURA スタジオ



谷街道は修景計画に添い、伝統的な意匠をもった建物が建てられ、塀が統一されていく。
塀は白色の壁に棟瓦をつけたものが、周辺地域で多く見られ、この意匠を継いで統一する。

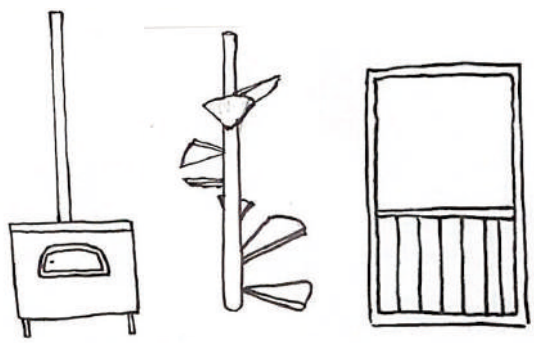
街道より少し中に入ったところに見られる倉庫を、建具をたてたり、ロープをかけるなどして簡易的に手を加え、人の居場所を作る。



※白の壁面に棟瓦というデザインを統一

敷地2 休憩所

北側倉庫は建具を変更し、ベンチ、暖炉を設ける。
南側倉庫は螺旋階段を設置。一階は自転車置き場に。
住宅が密集する敷地の中の憩いの場。お年寄り
は井戸端会議を、子どもたちは放課後に集まる。



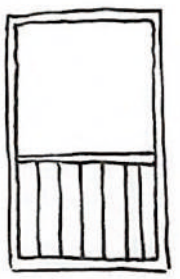
敷地1

コミュニティーガーデン
コミュニティーフィールド

街道沿いの空き地に地域の人が自分達で手を加える畑、花壇を設けることで人々の生活の中に、人との関わりを生む。
土日祝日に歩行空間となる谷街道でさまざまなイベントを開き、地域の人だけでなく観光客を集める。

敷地3 なんでも市

倉庫が向かい合って建っている。
倉庫内の仕切りを外し、建具を変えることで簡易的な貸店舗に。
屋根にかけるロープに商品を吊るし、週末の地域の人のたまり場に。



敷地4 四阿

屋根と柱で構成される四阿。
片流れの倉庫をモチーフに休憩所を造る。
通りから少し中に入った場所で人は足を休める。
そこに集まった人たちの輪ができちょっとしたコミュニティに。



谷街道東側修景立面図 (S=1/150)

●step2 蔵を地域の拠点に

	谷街道	土蔵・倉庫
step1 (5年後)	土日通行禁止 広場 塀を統一	倉庫を人のたまり場に 休憩所 なんでも市
step2 (10年後)	土日通行禁止 片側通行 街並みの修景	蔵を地域の拠点に 蔵の再生
step3 (30年後)	一般車両通行禁止	YAGURA が人を繋ぐ YAGURA テラス YAGURA スタジオ

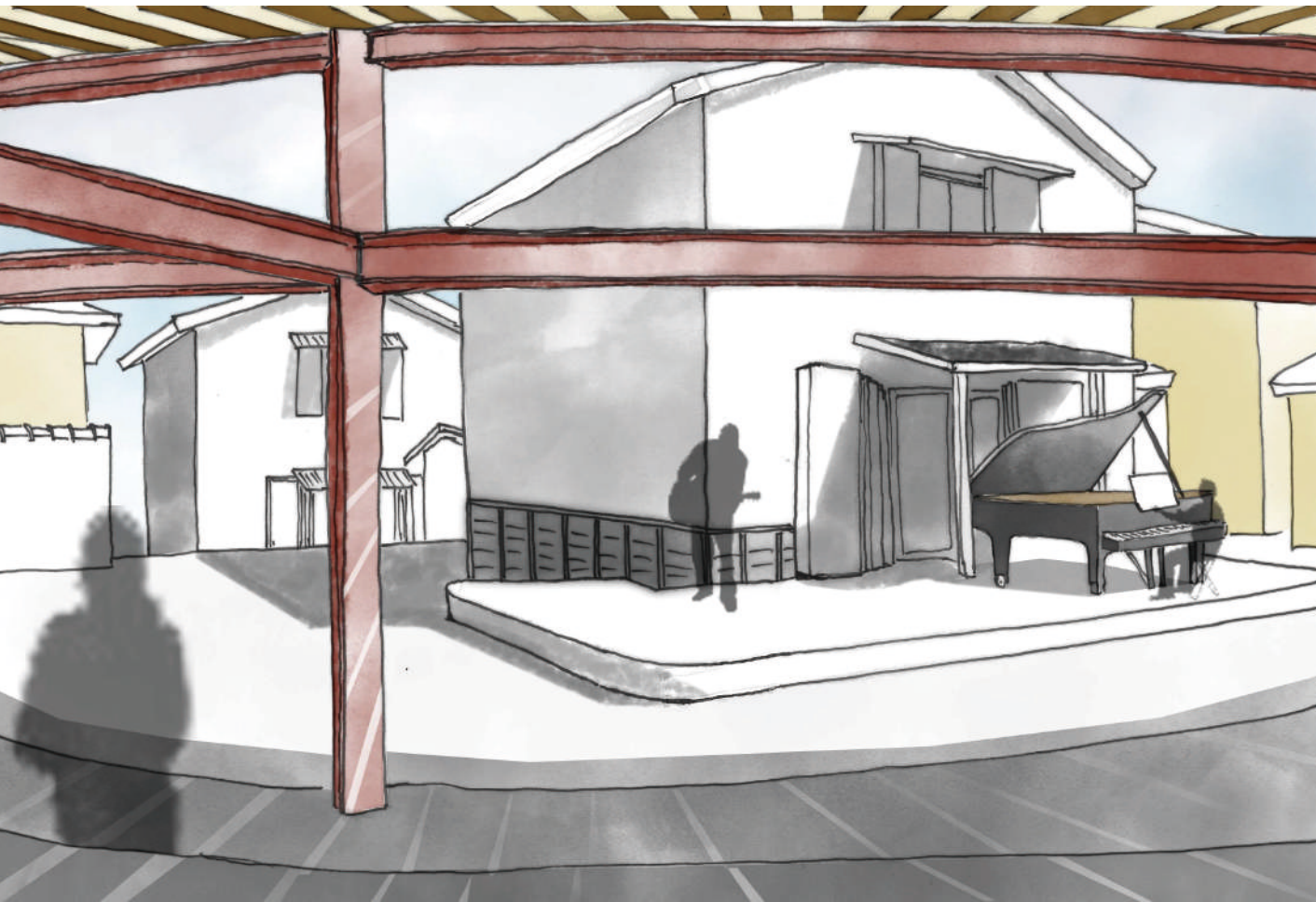
谷街道では、空き地に伝統的な意匠を継いだ建物が建ち街並みが整う。
また土日歩行空間に加え、片側通行とすることで観光客が歩きやすい空間になる。さらに通学路として小中学生や周辺に住む地域の人が安全に歩くことができる。

ウラにある蔵はオモテより見えない。『蔵の町並み』向け蔵を活用していく。
居場所となった倉庫は継続的に住民に憩いを与える。

敷地 5 陶芸教室・音楽教室

比較的保存状態のいい土蔵。
しかし私有地の中に入り込んでいてオモテの通りからは見えず、蔵のそばまで足を運んで初めて蔵を実感できる。

ここでは北側の蔵を陶芸教室に、南側の蔵を音楽教室にする。
ステージを設けることで、土日はコンサートを開くことができる。



蔵の活用

今現在で土蔵が使われているか分からなく、外壁が剥がれ今にも壊れそうな蔵がいくつも見られる。保存されている蔵は今後も須坂の歴史を伝えていくものとなるが、放置されている蔵は空き蔵となり取り壊されかねない。『蔵の町並み』を表す重要な要素を無くさないためにも、保存・再生し、活用していくことが必要である。

※旧越家住宅の蔵はチャレンジワークの宿泊施設として再生、活用する。

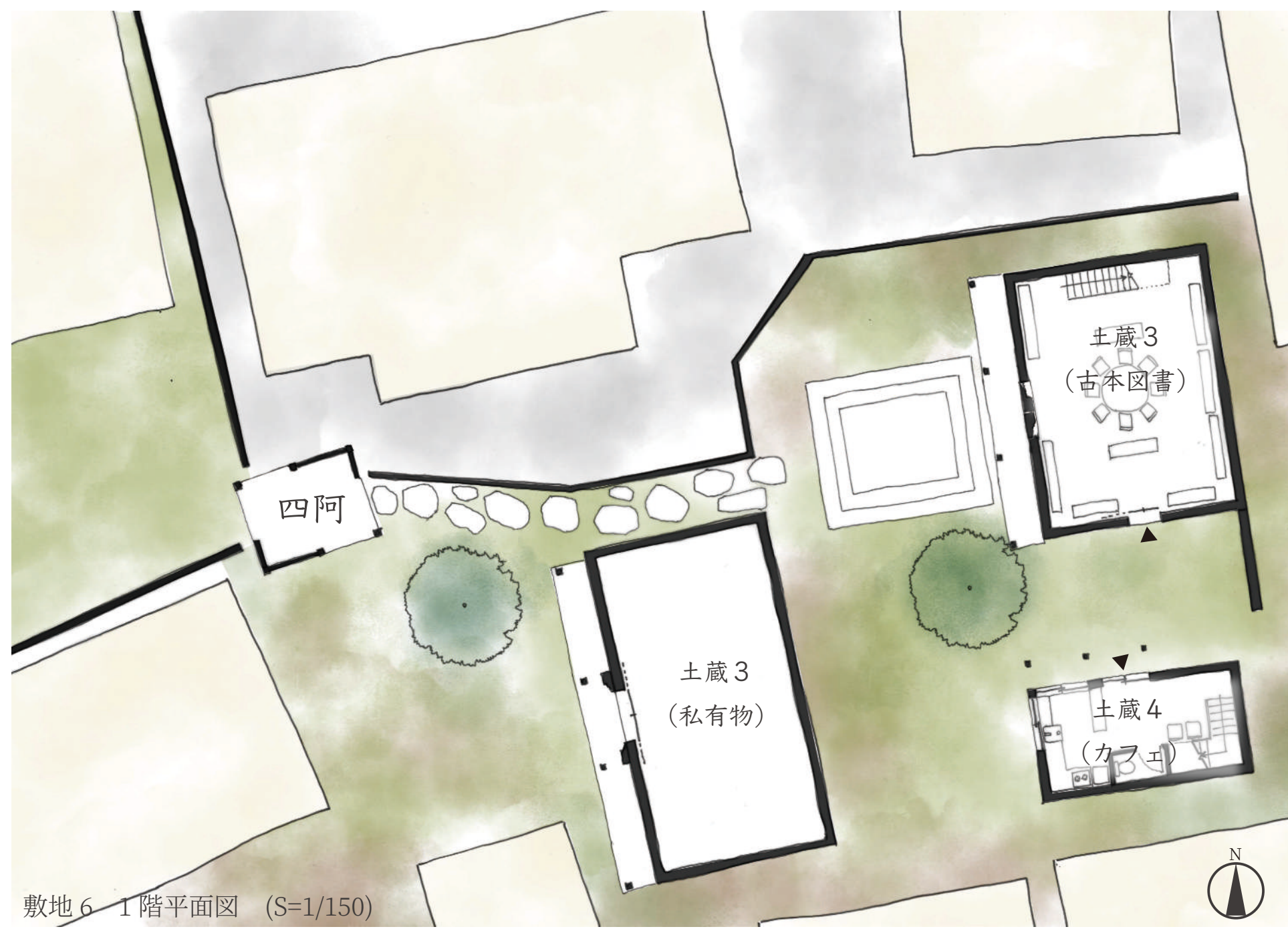
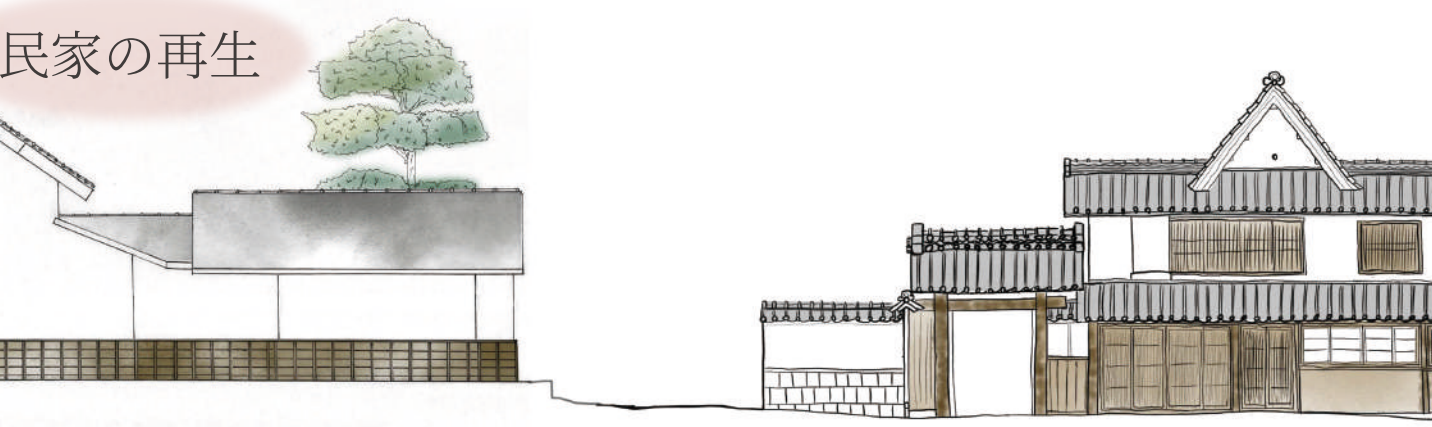


step2 蔵を活用し街の拠点をつくる。ウラに隠れた魅力がオモテに現れる。

敷地 6 古本図書・カフェ

3つ土蔵が建つこの敷地では段階的に蔵を使用する。
この3棟は保存状態が悪く、廃墟になりかねない。

step2 では東側の2棟を再生する。
北側を古本図書に、南側をカフェにする。西側にある小屋からアプローチをつくり、3棟の中央段差のある窪みをつくる。



街道沿いに新しく建てる建築物は、伝統的意匠を継ぎ、観光目的の用途の建物を建てる。移住者が事業を始めやすいように、共同で建物を使い複数の店舗が入る形式を取るチャレンジショップを設置する。



●step3 街のシンボルに人が集まる

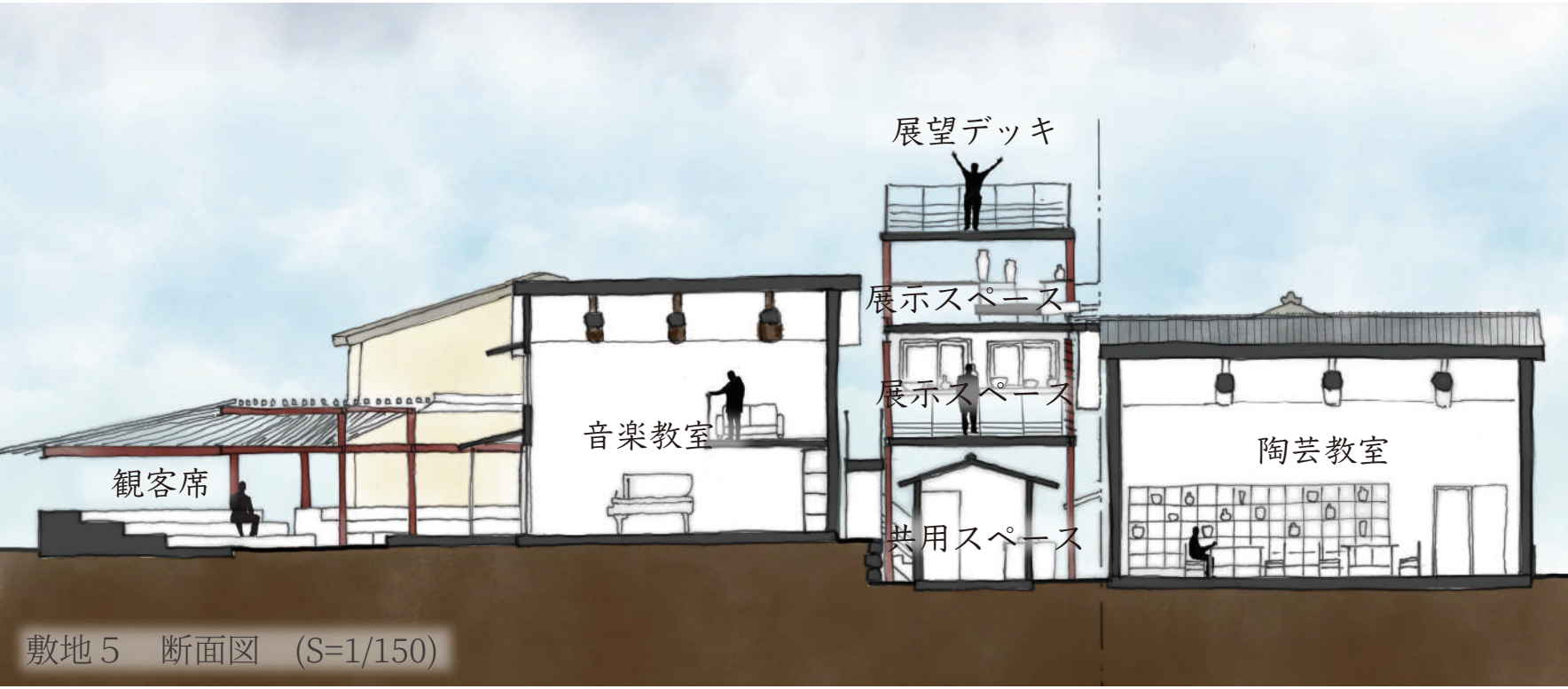
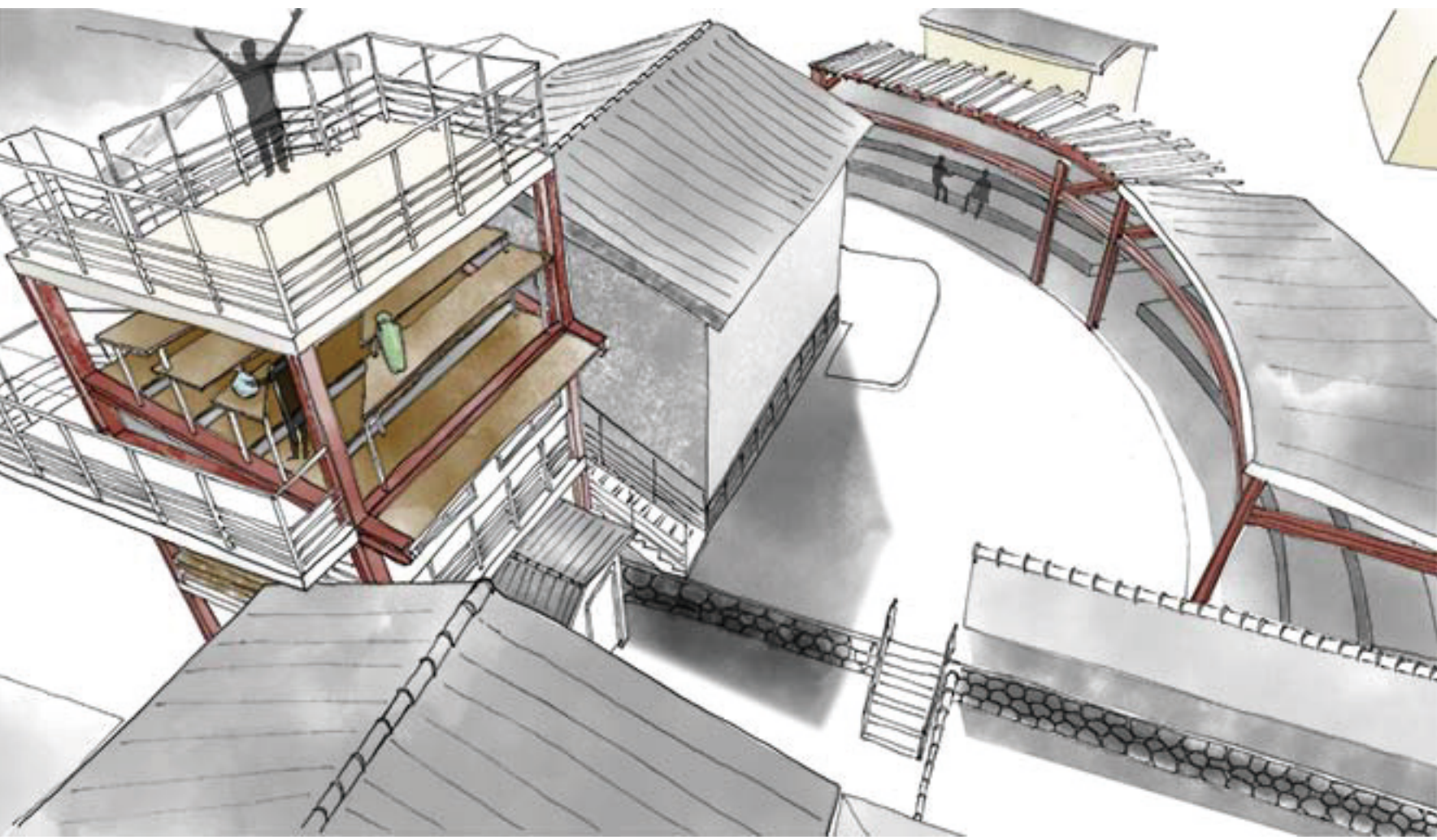
	谷街道	土蔵・倉庫
step1 (5年後)	土日通行禁止 広場 扉を統一	倉庫を人のたまり場に 休憩所 なんでも市
step2 (10年後)	土日通行禁止 片側通行 街並みの修景	蔵を地域の拠点に 蔵の再生
step3 (30年後)	一般車両通行禁止	YAGURA が人を繋ぐ YAGURA テラス YAGURA スタジオ

谷街道は一般車両の通行を禁止し、完全な歩行空間となる。修景計画は進み、町並みが整い観光客がより足を運ぶようになる。景観を整え、歩行空間とする最後の手として、道路を石畳にし、他の道路との差別化を図る。

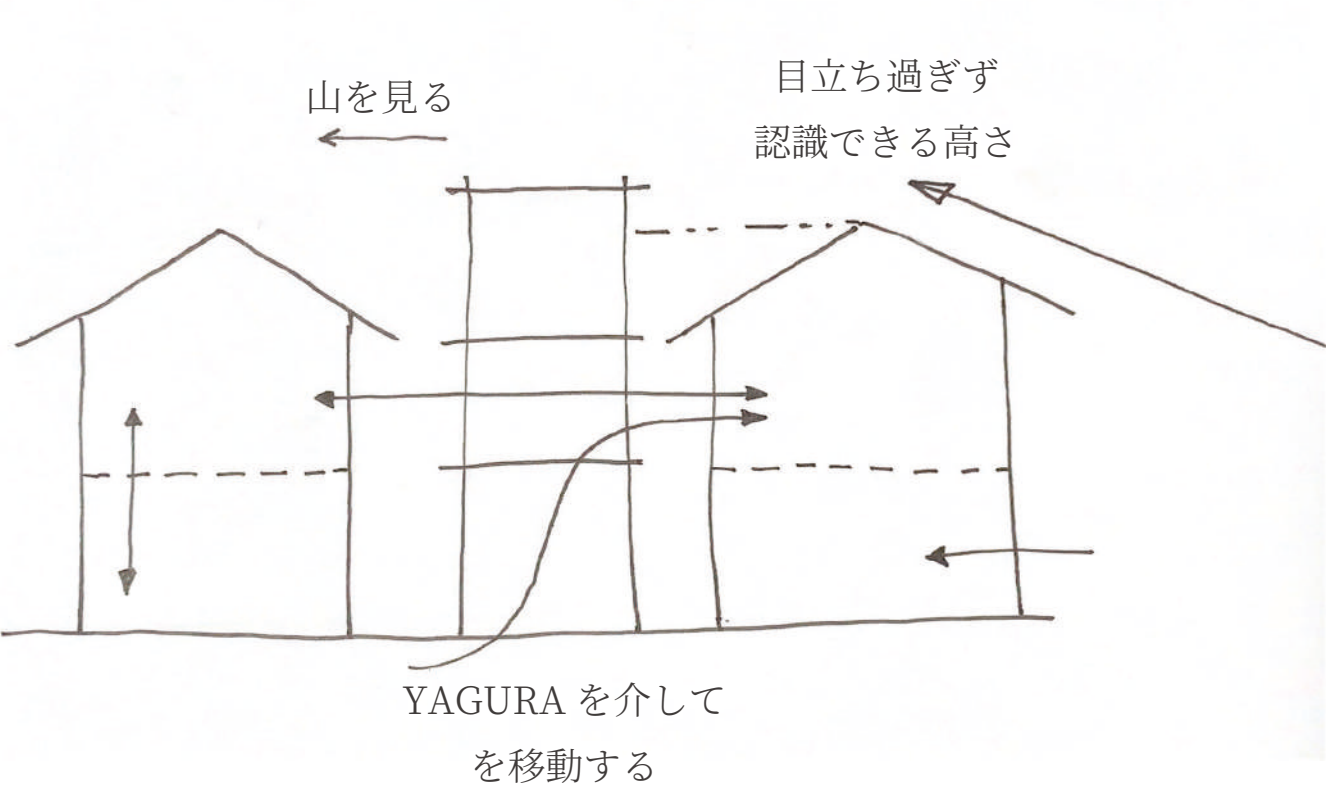
観光客が増え、地域の人が歩くようになった空間に街のシンボルとなる YAGURA を建てる。より近くで土蔵を感じる。

敷地 5 YAGURA スタジオ

1 階を共用トイレ、2 階を展示スペース兼連絡通路、3 階を展示スペース、屋上を展望台兼ステージとする。
展示スペースでは陶芸教室で作った作品を展示・鑑賞する。
2 階連絡通路からは土蔵 2（音楽教室）2 階へと入ることができ、音楽教室の見学、室内コンサートの観客スペースとなる。
展望台からは街道の奥に、信州の山を望み、街を見下ろす。



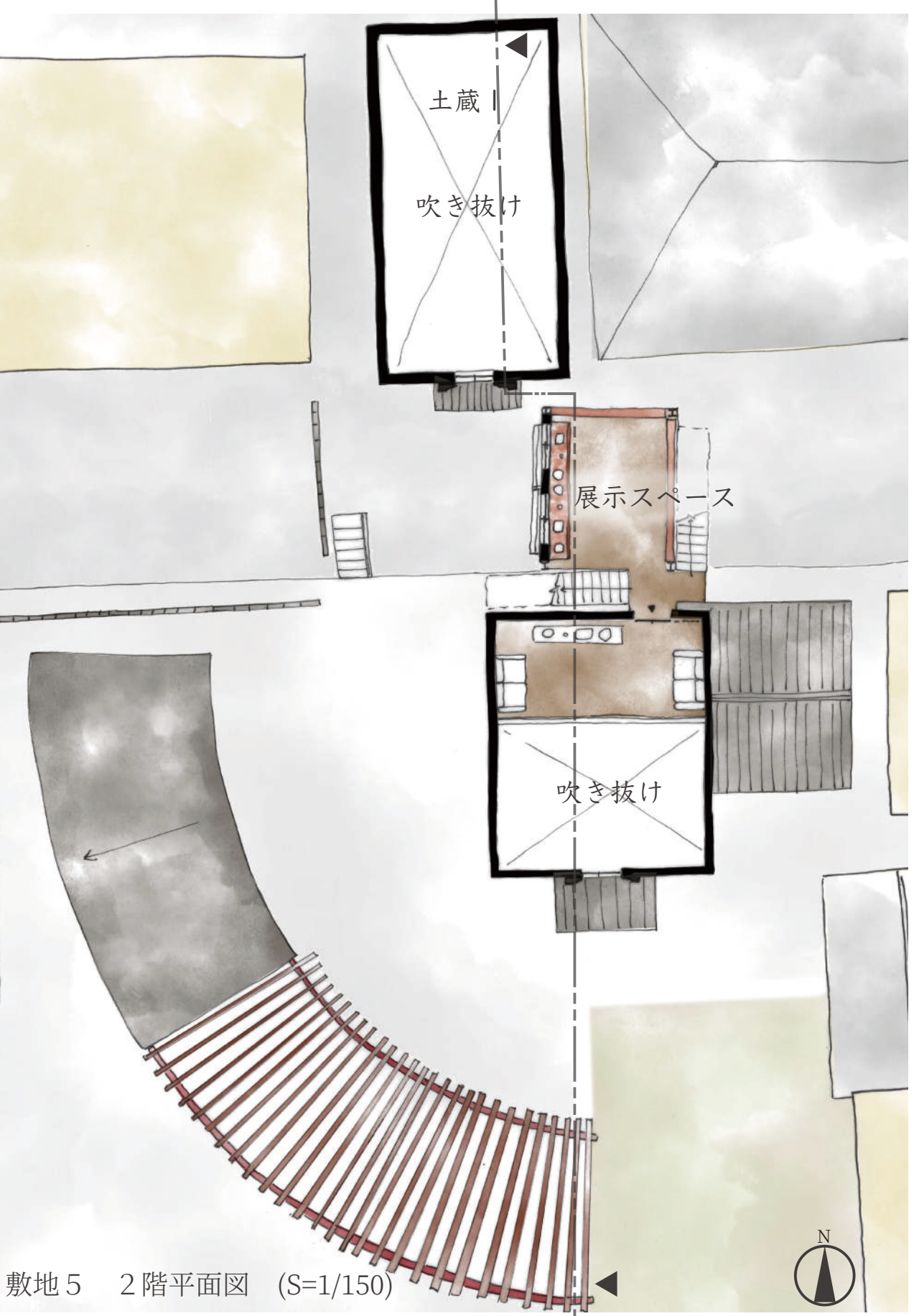
敷地 5 断面図 (S=1/150)



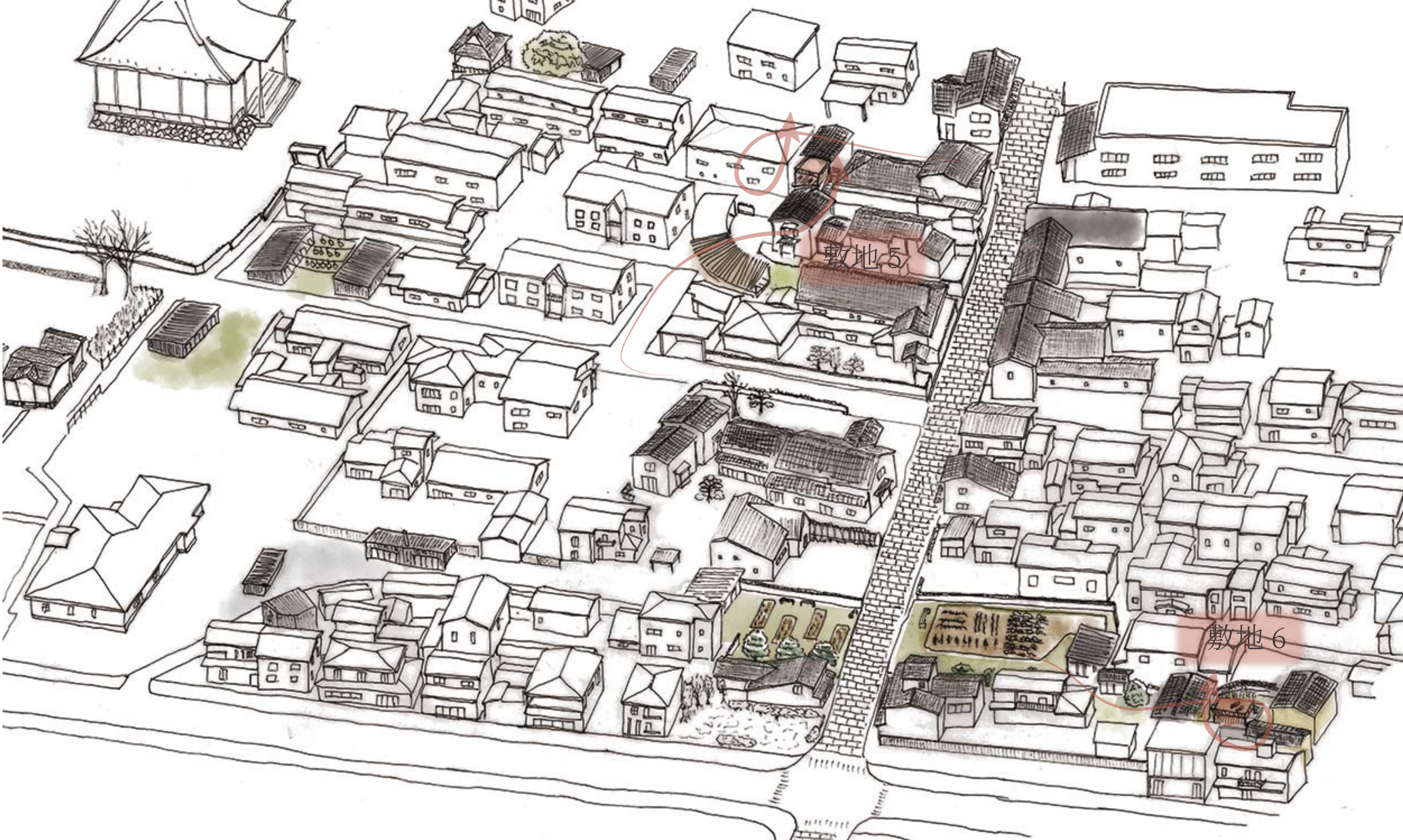
YAGURA 屋根+蔵 櫓

街歩きをして信州の山、信州の街を一望できる駐車場を見つけた。しかしその場所は公共空間とは言えず、入り難い場所であった。
そのような公共な場所を作り、観光客には信州の魅力を感じてほしいと感じた。

土蔵が密集している場所が点在することも須坂の特徴の一つと考える。それらの場所で土蔵にふれることができ、土蔵が建つ場所が一体化すれば、より須坂の土蔵を知ることができ、さらに街並みを知ることができると思う。



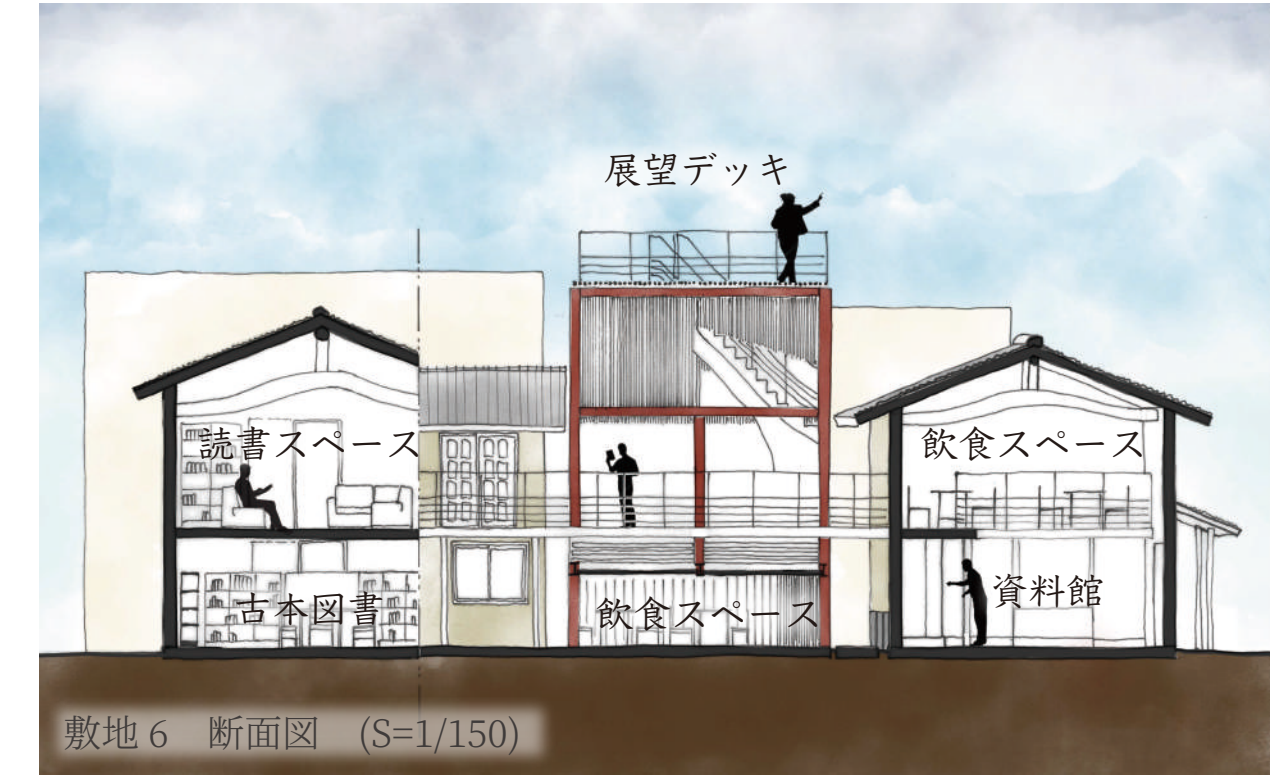
敷地 5 2階平面図 (S=1/150)



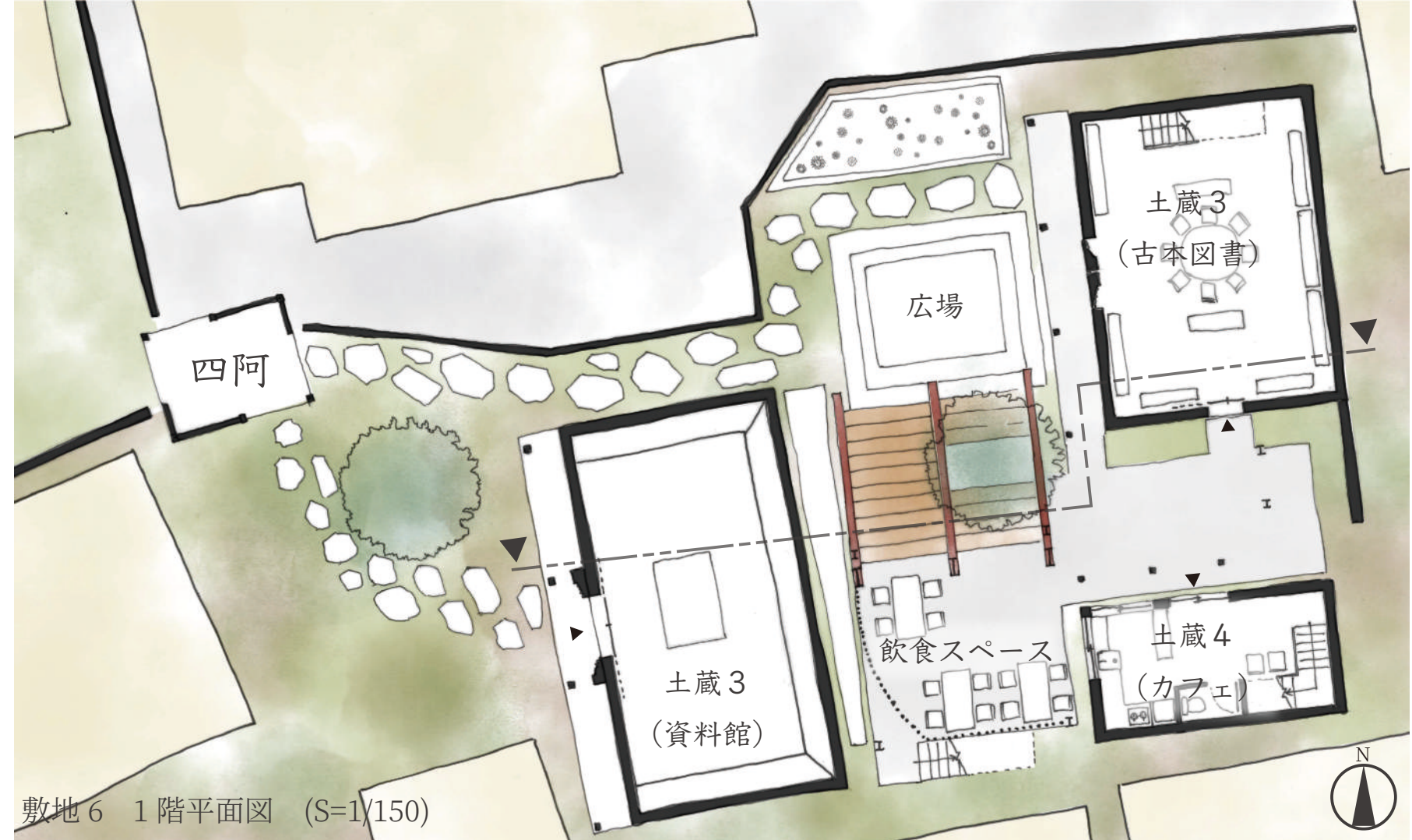
step3 「オモテ」に来た人が「ウラ」に触れることで「オモテ」を知る。「オモテ」から「ウラ」へ、「ウラ」から「オモテ」へ。

敷地 6 YAGURA テラス

1 階をカフェ飲食スペース、2 階を連絡通路兼飲食スペース、屋上を展望台とする。
一階の北側は中央の窪みから連続するように段差が伸び、人は腰掛け休憩する。
土蔵 3 は 1 階が街の資料館、2 階がカフェの飲食スペースとなる。
2 階連絡通路をもって 3 棟の土蔵を繋ぎ、ここへ来た人々のコミュニティを生む。古本図書で借りた本をお茶と共に、好きな場所で楽しむ。
展望台からは街道の奥に、信州の山を望み、街を見下ろす。



敷地 6 断面図 (S=1/150)



敷地 6 1階平面図 (S=1/150)

